

令和7年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時	令和7年12月18日(木) 15時00分開会(～16時30分閉会)	
開催場所	臼杵市役所臼杵庁舎 中会議室	
出席者氏名	臼杵市長 西岡 隆 臼杵市教育委員会 教育長 安東 雅幸 教育長職務代理者 神田 岳委 教育委員 村上 睦美 教育委員 佐藤 雄一 教育委員 木本 邦治 (市長部局事務局) 秘書・総合政策課 課長 望月 裕三 未来プロジェクト室 室長 大津 由美子 主幹 岩本 武 (補助) 企画グループ 総括課長代理 芦刈勝一郎	(教育委員会事務局) 教育次長兼教育総務課長 佐藤 忠久 学校教育課長 新名 敦 社会教育課長 那賀 啓史 学校教育課参事監 高田 教一 学校教育課総括課長代理 兒玉 優
欠席者	なし	
会議事項	1. 開会 2. 議題 <<協議事項>> ・「臼杵市教育大綱」について <<秘書・総合政策課>>…(資料1) ・『これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む小中一貫教育』について <<学校教育課>>…(資料2) <<報告事項>> ・臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について <<秘書・総合政策課>>…(資料3) 3. その他(フリートーク) 4. 閉会	
開会 (事務局) 秘書・総合政策課 長	会議の前に配付資料の確認をお願いします。まず本日の次第、ございますでしょうか。そして資料1、続いて資料2それから資料3がA3です。皆さん不足はございませんでしょうか。	
市長・教育長 教育委員	はい	
秘書・総合政策課 長	それでは、定刻より少し早いですが、これから会議を始めさせていただきます。まずは本日お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。私は司会を務めさせていただきます秘書・総合政策課長の望月と申します。それでは、ただいまより、令和7年度第1回臼杵市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、西岡市長より、あいさつをお願いいたします。	
市長	皆さんこんにちは。日頃より大変お世話になっております。臼杵市総合教育会議ということで、お忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また教育委員の皆様方におかれま	

<p>教育長 教育委員</p>	<p>しては、白杵のこどもたちの教育に関しまして、多大なご理解ご協力をいただいておりますことを改めてお礼を申し上げたいと思います。おそらくこの総合教育会議は数年前に、教育委員会の仕組みが大きく変わって、執行部側との連携をしっかりとっていくという形で、でき上がった会議ではないかと思ひます。私も市長に着任して、もうすぐ1年ということで、いろんなものが1周して、一通り経験してきた中では、今回この総合教育会議は初めて参加するということになります。今日のテーマでは、教育大綱の話、あとは、今後に向けてということで、統廃合の方針は、令和9年度のことは、皆さんのご協力で、大枠を決めていただいてそれに向けてあとは詰めの作業を行うことになっておりますが、今年度を1つの期限として、小中一貫教育のあり方についても考えをまとめていただけると聞いております。白杵のこどもたちの教育環境は、これから長い目で見てどういうふうに考えるという点では、大きなポイントとなるタイミングではないかと思ひています。そういう意味で、今日皆様方と率直な意見交換ができればと思ひておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>お願いします。</p>
<p>秘書・総合政策課 長</p>	<p>ありがとうございました。それでは早速議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、本会議の議長であります西岡市長にお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。 それでは協議事項ということで次第に2点ありますけれども、報告が1つですね。 それについて意見交換していきたいと思ひます。なお、本日の議事は記録をとりますので、挙手のうえお名前を添えていただければ幸いです。 それでは、最初の協議事項、白杵市教育大綱について、秘書・総合政策課から説明をお願いします。</p>
<p>秘書・総合政策課 長</p>	<p>はい。それでは私の方より、協議事項の1番目の白杵市教育大綱について説明をさせていただきます。着座にて、説明いたします。資料の1をご覧ください。 本市の教育行政は、平成27年10月29日に制定をしました白杵市教育大綱のもと、家庭・学校・地域とも連携を図りながら、白杵市と教育委員会の双方で手を取り合いながら、教育政策を推進しております。こうした中本年1月に西岡市長が就任し、新市政となつてから、本日が初めての白杵市総合教育会議となることから、白杵市の教育・学術文化振興の基本理念や、その方針について定めている、白杵市教育大綱について、改めて皆様にお諮りする必要があるものと考え、本日の議題とさせていただきます。それでは教育大綱について、資料に沿つてご説明をさせていただきます。平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正が行われ、地方公共団体の首長と教育委員会が相互の連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を実施していくため、すべての地方公共団体の首長に、総合教育会議の設置と教育大綱の制定が義務づけられました。総合教育会議においては、教育に関する予算の編成、執行権限や条例の提案権を有する首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、重点的に講ずべき施策について協議・調整する場としての機能を持つべきとされ、白杵市においては、平成27年7月、白杵市総合教育会議を発足いたしました。一方で、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針として定めた、白杵市教育大綱については、市長が素案を作成し、教育委員の皆様と、本会議において十分に協議、調整を尽くした上で、平成27年10月29日に制定され、以降、この大綱のもと、市長部局と教育委員会は、それぞれの事務を管理・執行していくこととなり、白杵市としての教育政策に関する方向性が明確化されるとともに、双方で総合的な推進</p>

を図って参りました。ここで改めて、臼杵市教育大綱を読み上げさせていただきたいと思えます。資料の赤枠の部分をご覧ください。まず基本理念、生涯にわたる学びを支え、家庭、学校、地域の協働により、人生をたくましく切り開く心豊かな人材を育てる。続いて基本方針ですが、①家庭教育の支援。親は子どもが感性豊かでたくましく育て欲しいと願っており、その親の願いが実現できるように支える。②学校教育の充実。子どもたちの発達段階に応じた、的確な指導のもと、基礎学力の定着と心身のバランスのとれた教育を実現する。③社会教育の充実。市民の自己実現や、市民力の向上に資する多彩な学習機会を提供し、継続的な学びの環境を整える。④地域に根ざし、開かれた教育の推進。先人が築いてきた歴史や文化に親しみ、進取の気性と郷土を愛する心を育て、明日の臼杵を担う人材を地域一体となって育成する。⑤総合教育の推進。福祉やコミュニティー施策を担う、首長部局と密接な連携を図り、充実した子育て環境のもと、行き届いた教育を築く。以上でございます。なお参考までに、臼杵市総合教育会議の開催実績を裏面に掲載しています。ほぼ大体毎年1回程度開催をしてきた、そういったものになっております。では、これらを踏まえまして、臼杵市教育大綱の基本理念及び5つの基本方針の内容について、改めて教育委員の皆様にご意見をいただければと。なお、本会議に先立ちまして事務局においても、大綱の内容について確認をさせていただきましたが、制定から約10年が経過をし、よりわかりやすい受け入れられやすい表現や説明が求められる時代となっている状況を踏まえ、3点ほど、気になる表現がございましたので、この機会で見直しに関するご提案をさせていただければと考えております。

まず、1点目ではありますが、基本方針①家庭教育の支援。のうち冒頭に、「親は」という表現が出ております。また「親を子どもが」と続いておりますが、現在家庭の状況は様々であり、一律に親が、保護者ではないということも考えられますので、この表現は、「親」を「保護者」に変更してはどうかというのが、まず1つの提案でございます。

続きまして、②番の学校教育の充実でございますが、今後、こどもたちの発達段階に応じた的確な指導という、こちらの「的確な」という表現は、「適切な」に改めてはどうかというような提案がございます。少し補足説明をさせていただきますと、「的確」は要点を正確にとらえているかどうか、また、「適切」は状況や常識に合っていることを指すというふうにされています。今回の場合は、「発達段階に応じた」という前提に付随するものであれば、「適切な」の方がふさわしいのではないかなというものです。もう1点でございます。④地域に根ざし、開かれた教育の推進の部分でございますが、この中段のところで、「進取の気性と郷土を愛する心を育て」というのがあるのですが、この「進取の気性」というのは、少し一般的にわかりにくいのではと感じております。「進取の気性」の意味を確認いたしますと、これまでの習慣にとらわれず、みずから積極的に新しい物事に取り組む様子という意味になっております。これに関しましては、例えば、「自ら積極的に行動する姿勢」などに改めてもよいのではというご提案でございます。以上事務局の方から、こうした表現の修正についても少しご提案させていただいていますが、これらを含めまして、ぜひ、大綱全般について、皆様のご協議の方をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

市長

はい。ありがとうございました。今、事務局から臼杵市教育大綱についてということで、説明をいただきました。この大綱という言葉からすると、行政は通常、総合計画など5年単位とかでPDCAをまわして行って、適宜適切に変えていく。これに対しまして、大綱は事細かく変えていくような性質のものではないと思っています。私は新たに市長就任するにあたってでも、今まで掲げてこられたこの基本理念、基本方針は、その大枠、骨格を変える必要はないと私自身考えております。その中で、とは言いながらもこのタイミングは変えられるタイミングでもあるので約10年たったこのタイミングで、事務局が言ったような表現の修正の提案がありましたけれども、皆様方のご意見等々をいただくとありがたいと思っている次第でございます。何かご発言いただける方がいれば、お願いできたらと思います。

村上教育委員	今事務局の説明を聞いて、まず1番の親はのところを保護者に変えるのは大変良いと思います。これはいろんな保護者の方がいらっしゃる。そして的確なも適切で私は良いと思います。次の進取の気性は非常に普段、耳慣れない言葉ですから、当時これを考えた方は、調べてご存じだったんだと思いますが、わかりやすい言葉で変えると、さっきの説明のようにみずから積極的に行動する姿勢というのが良いかどうかは話し合うにしても、確かにもう少し保護者の方や、市民の方が見たときにわかりやすい言葉に変えるというのは、大事ではないかなと私は思いました。
市長	ありがとうございます。他にご意見等いただけたらと思います。
神田教育長職務 代理者	今、村上委員もおっしゃったように、問題ないのでは、ご提案の通りでいいのではかろうかとは思いますが、実際、進取の気性という表現がなくても4番の項目は、削除でもいいのではないかなと思います。
木本教育委員	私も事務局が提案した方向で、大まかな方向性でいいのではと思います。
市長	佐藤委員のお考えがありましたらお聞かせください。
佐藤教育委員	私も今皆さんがおっしゃった内容と同じでよいです。
市長	ありがとうございます。それでは①、親を保護者に変える、これは2ヶ所になっていますけれどもそこを、保護者は子どもが感性豊かでたくましく育て欲しいと願っており、その保護者の願いが実現できるように支えるってというような話で進めていること、②については、子どもたちの発達段階に応じた、適切な指導のもと、基礎学力の定着と心身のバランスのとれた教育を実現するという、ここは確定ということにしたいと思います。 あと、こども家庭庁ができて政府の方は「子ども」を使うとき、いつもひらがなを使うようになったんですね。そこで、この①②には子どもという表現があり、これをひらがなにしたいと思うのですがこれについては良いでしょうか。
教育委員	良いと思います。
市長	それから④進取の気性ですが、さきほど言っていたように削除にするのか、事務局提案の自ら積極的に行動する姿勢ということなんですが。いただいた提案の感覚からして削除の方がシンプルでいいと思うのですが、それについてはいかがでしょうか。
木本教育委員	でも私は積極的に行動する姿勢という言葉はあったほうが良いと思います。これからのこどもたちには、積極的な意見と行動力を持って欲しいと私は思います。
市長	神田委員よろしいでしょうか。
神田教育長職務 代理者	はい、よいです。
市長	では事務局案でもう1回読んでみたいと思います。「先人が築いてきた歴史や文化に親しみ、自ら積極的に行動する姿勢と郷土を愛する心を育て、明日の臼杵を担う人材を地域一体となって育成する」このように修正したいと思います。円滑な議論をしていただきありがとうございます

秘書・総合政策課	<p>す。それでは1つ目の協議事項については終了したいと思います。適宜事務局におかれてはこの大綱の見直しの手続きを進めていただけたらと思います。</p>
市長	<p>承知しました。</p> <p>では続いて、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む小中一貫教育について、学校教育課から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>はい。ではよろしく申し上げます。学校教育課長新名でございます。私の方からは、資料の2に基づきまして、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む小中一貫教育について説明をさせてもらおうと思っております。この内容につきましては、これまで適正規模適正配置を進めていく中で、教育委員会等で説明してきた内容と、今後の臼杵市の教育方針に関わる部分かと思っております。ぜひ、この中について、今までやってきた取り組みと今後を含めて説明したいと思いますので、ぜひいろんな立場からご意見いただいてご議論いただければと思っております。着座にて説明させていただきます。資料2の紙資料もありますし、こちら(モニター画面)もありますので、見やすい方で見いただければと思っております。まず、今日の内容につきましては大きく4つの項目を考えています。1つ目は、臼杵市の学力調査結果、これもすでに報告している部分ではありますが、やっぱり学力をしっかりつける力は、切り離せないことかなと思ひ今日は少し入れております。それと、2項目目でこれまでの臼杵市の小中一体教育、これをどのような形で進めてきたかについての説明、そして、3が、適正化、配置計画ということで、現在進めている内容、そして、4が今後の方向性ということで小中一貫校の設置について、2・3・4については過去現在未来というような形で、主題となるような部分を説明していきたいというふうに考えておりますのでよろしく申し上げます。</p> <p>まず最初の学力調査結果についてです。臼杵市はこれまで報告している通り力がついていてと考えております。それは評価する指標として1つ、全国の学力学習状況調査、これは4月11日に小6と中3が行うものでございます。それと大分県の学力定着状況調査、4月22日に、小5と中2を対象に行うものでございます。特に何位ということは比べる必要ないとは思いますがあくまで指標の1つとしてご覧いただければと思ひます。まず、全国の学力学習状況調査は、小学校6年生は国語と算数と理科の3教科で行われました。この黄色の部分につきましては県内順位を出しております。</p> <p>小6の国語は1位、算数は全県で1位、そして理科が3位ですけれども3教科合計でトータルでは、臼杵市は県内で1位という成績です。そして、中学校3年生の学力学習状況調査結果ですけれども、国語と数学と理科の3教科で国語は県内1位、数学は県内3位で理科も県内1位でこれも3教科トータルで大分県内で1位という成績です。中学校の場合、1市町村に1学校の場合は除くということなんですけれども、それを除くと1位という形になっております。そして小学校5年生は、標準スコアですけども、国語3位、理科5位、理科2位ということでトータルでは3位ということでかなり上位の成績です。中学校2年生につきましては国語・社会・数学・理科・英語ということで、これも2位3位3位4位、そして英語は1位という成績で、5教科トータルでは県内で1位という好成绩を進めております。これにつきましては一番はもちろん子どもたちの頑張り、臼杵の子どもたちが真剣に学んで、授業もいつも見ていただいておりますが、かなり授業の中身についても落ち着いて学びに向かう姿勢ができています。それがしっかり点数にも表れているという状況です。これが今の学力の状況ということになります。</p> <p>続きまして臼杵市小中一体教育についてということで、これまでの取り組みの積み重ねということになりますので、その部分を少しお話ししようと考えております。まず小中一体教育につきましては平成26年度から、臼杵市独自ということで、安東教育長が北中学校の校長だったときに、臼杵市をどうやって教育を進めるかということでご提案いただいて、導入していたもので</p>

す。私もちょうど指導主事 2 年目のときで、いろんな話をしながら、授業ルールを作ったり学習の手引き作ったりしたことを思い出すような内容になります。特に内容については小中一体教育ってというのは臼杵市独自の言葉なんですけれども、特に臼杵市はブロックによっていろいろな学校があります。1 小学校 1 中学校もあれば複数の小学校から複数の中学校、これを 1 つの中学校ごとに見て、そして地域の特性、強みを生かしながら、行うということ。これも小学校と中学校が連携する、または、小学校同士が連携するということをして、しっかり地域ごとグループごとに取り組みをしながら、目指す生徒像ですけれども、やっぱりこの地域が大好きな、将来、地元に戻って活躍するような人材を育成したいという思いで始めた取り組みになります。これを平成 26 年から取り組んで、臼杵市教育委員会として全市的に展開するという形になります。これは今小中一貫校というキーワードで進めているんですけども、内容や目指すことについてはほぼ小中一貫校と同じようなものであると考えているという状況です。とはいえ課題ですけれども、中学校ブロックごとに、それぞれ取り組みに濃淡があるということは現実言えますし、それと、1 小学校 1 中学校のところは直結連携するので行いたいのですが、1 中学校に対して複数小学校がある場合、例えばつけたい力を揃えるだとか取り組みを揃えるというのはなかなか難しい面もあったりして、調整が課題と考えてます。いずれにしてもこの取り組んだ小中一体教育をベースにして、小中一体教育から小中一貫校、これをしっかり設置していきたいというのが流れになります。

続きまして適正化配置計画ということで、これにつきましては、今年度、6 月末に適正化配置計画について、教育委員会でご承認いただいた内容の復習になります。

あり方検討会とはということですが、外部のこともたちに関わる検討委員の方に話し合っていたということ、ご提案いただいた基本計画案、これをもとに、教育委員会事務局我々が地域説明会を行いながら、出た意見を修正する形で、今現在に至っております。次からの資料は、この地域説明会で説明した内容になります。特に臼杵市が進めてきた内容については、いわゆる統廃合となると人数が少なくなった事を理由に仕方なく実施するというのではなくて、やはりこれからの時代に子どもたちに必要な力をつける、子どもたちがより良く、このスマート社会をしなやかに築く力を生きるためにつけましようという内容で、その具体的な部分を提案したことになります。特に今 3 つの柱ということで、この学びに向かう力、人間性これは学習指導要領ですけれども、いわゆる 3 本柱ということで、学びに向かう力人間性そして生きて働く知識技能、そして未来の未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等ということで、ただ勉強がわかるとか、そういうことだけではなく、この 3 つをバランスよく育てたいということ、今後は大事ですよということを地域で説明した内容になります。次が、臼杵市の教育委員会の基本方針です。これも、臼杵の未来をたくましく拓き超スマート社会をしなやかに生き抜くうすき子を育てるための適正規模適正配置を行いましよう、ということで進めました。そして臼杵市は伝統的に 3 つの教育ということで、郷土の郷育、そして協力の協育、響き合いの響育、このキーワードを使って進めております。今日育、今やることをしっかり行う、その時間を大切にしたい教育が出てきておりますので、それを土台とした教育を進めていますという説明と、それと適正規模適正配置の説明に関連しましては、半分から下になりますけれども、文部科学省の中央教育審議会の答申ですが、個別最適な学びと、いわゆる協働的な学び、要するにみんなで多くの他者あるいは、大人も子供もそうなんですけど、多様な他者と協働しながら議論する。このような場の設定を大切にしたいんです。そのためにはやっぱりある程度の人数規模がいりますよねって話を進めてきた中身になります。特に目指すところとして、正解のない課題、これはもうこれからの社会は必ず正確のない課題です。1 つの答えを導いた製品じゃなくて、正解のない課題に対して、議論を重ね、そして自分の考えと他者の考えをよりよくすり合わせながら合意形成できる力の育成、これが大事ですよという型。そして、最適解という形で、もう絶対的な 1 つの解じゃなくて、最適な答えをみんなでつくる力をやっぱり学校教育つけたいんですということを話した内容になります。

そしてこれは適正な規模の基準ということで、臼杵市は12名以上という設定をしました。他の市町村は単純に少なくなったからということなのですが、じゃあどれくらいの規模が必要ですかというので、12名以上という規模、この12名の規模の説明についてはここにありますが、1人と1人、2人であれば、線は一本ですね、3人なら線3本ですけど、4人になると、この関わりの線が6つ一気に増えるということ。この4人のグループをベースとして、4人のグループが3つ、しさん12人の規模の一学級あれば、目指すような協働的な学びが可能ではないですかという話をしたという内容であります。そして、これが適正化配置計画の、いろいろ意見を伺って修正したものです。これはもう公表しております通り皆さんに計画を認めていただいた通り、北ブロックについては、佐志生・下の江と海辺小を令和9年度の統合に向けて、今年度から個別計画の作成に着手して、校舎は海辺小を使用。これは当初、下北小と下の江小と佐志生小を統合としてたんですけれどもこれは地域の意見を聞いた上で、柔軟に変更させていただいたという中身になります。

そして野津ブロックにつきましては、川登小・南野津小・野津小を令和9年度の統合に向けて、そして野津小を使用予定ということで、これも公表して、閉校の準備協議会と統合協議会を今もうすでに1回目を実施して、地域の方保護者の方の意見を聞きながら、適切に進めていきたいという形で今やってる状況にあります。

続きまして小中一貫校の設置ということで、これについては今年度、令和7年度の公立学校のあり方検討の中身で議論を今深めている途中ですけれども、地域でいろいろ説明する中で、その統廃合という形で小学校が一緒になるということは議論になったんですけれども、その中でさらに加えて、臼杵市としてより魅力ある学校はということで、この小中一貫校一貫教育ということはいろんなところで出てきたキーワードとなっています。

そのようなことで、今回、公立学校のあり方検討委員会でいろいろお話の中で、小中一貫校についての議論を今年度から特に深めていきました。

1回目が6月3日で、2回目が7月31日。そして3回目は、校舎の視察ということで、校舎が古くなっている市浜小と西中。野津ブロックは校舎が新しい野津中と、そして今度3校が小学校は3校が統合となるのですが、人数の減少に対して、最終的には野津中学校に小学校と中学校が一緒になってよりよい教育を行うと。

そのために今一応校舎見ていただいて、小中一貫校というイメージで野津ブロックが先行した取り組みかなというふうに考えているという状況になります。

そして第4回目で公立学校のあり方検討委員会ということで、小中一貫校に向けた考え方についての中間まとめという形でいただいたものになります。これはあり方検討委員会の校舎視察の様子です。いろいろこの施設の状況を見ていただいたという状況です。そして検討委員会としての考え方ということで、中間まとめをいただきました。この中間まとめについて、読み上げたいと思います。

臼杵市独自の取り組みである小中一体教育の成果を生かして、今後の少子化や、学校施設の老朽対策も視野に入れそれぞれの中学校ブロックを基本とした、小中一貫校これは後で説明しますが、施設一体型・施設隣接型・施設分離型での設置を進め、さらなる教育効果の向上を図っていくことが重要と考える。また学校施設については、建設から年月が経過している校舎もあることから、教育環境の改善に取り組んでいただきたい。特に、市浜小学校及び西中学校に関して早急に対策を講じていただきたいという、いわゆるあり方検討委員会の中間まとめという形で報告をいただいた中味になります。そして小中一貫校なんですけれども、今後想定される議論としてやっぱりブロックごとに様々な形態がありますから、一律的なとらえ方では難しいかなと思ってます。そこで、文部科学省の手引きをもとにして、3つの形に分類しております。

施設分離型という形で、小学校と中学校が分かれた形。それと施設隣接型という形で、同一敷地内にあったりとか道路1本隔てて本当に近くにある形、そして施設一体型として小学校中学校が同じ校舎による形。この3つの形をもとにしてブロックごとに、どのような形がいいのか、

あくまで方向性になりますけれども様々な検討を進める必要があるのかなという形で、先々は小中一貫教育、これを、念頭に置きながら、臼杵市全体の方向性を決めて方向性を見ていけるといいかなと考えている状況です。そして小中一貫校の導入で期待されるメリットとしてこれもあり方検討会で進めた部分になりますが、一番はつきたい力をそろえ、要するに9年間というスパンの中で、小学校は小学校、中学校は中学校でバラバラではなくて、その児童生徒にとって学習指導を行うため、9年間の連続した教育課程を組むということ。

そして、やっぱり臼杵市のメリットはそれぞれの地方ごとに、人・もの・ことであったり、魅力的な学習素材があるということですので、それを生かした教育課程に取り組むということ、これがメリットかと思っています。それから2番目の丸が、教職員の意識の変化です。今までどうしても小学校は小学校、中学校は中学校という意識があるのですが、一貫校ということで交流をする中で、それぞれの小学校中学校両方の意識を持ちながら育てると意識が持てるということ。そして3つ目が中1ギャップ。小学校から中学校へ移行が生じるときにやはり様々な変化があります。これを小中一貫ととらえることで、そのギャップを緩和するという。または小中一貫校ということで、それぞれ教科の専門性も中学校の先生が小学校で授業する、そのような魅力的な学校経営ができると良いのではと考えているところです。そして異学年交流の強化ということで、社会性・協調性を育む取組として小学校と中学生が交流を行う。12月12日に推進フォーラムという形で、大分大学教育学部の久保隆特任教授に講演いただきました。その中で中学3年生が小学校1年生の手を引いて、お見知り遠足に行くなどとてもほほ笑ましい姿があったり、様々ないろんな取り組みができるとしています。3つ目は施設や設備の教育です。様々な小中一貫校となれば、隣接型とか、一体型となることで、校舎もそうですし、例えばプールとか体育館とか、そこをうまく共有しながら、お金がかかりますのすぐはいきませんけれども、そういうところも視野にしながらでもいいかなというところが出たところ、考えてるところです。というところで小中一貫校の設置、ここは当然ブロックの状況もあり、一朝一夕にできるものではありませんが、このような大きな方向性を見据えた上で、臼杵の教育を考えていけるといいかと思っておりますので、ぜひ今、今日の場合は夢を描くというか、臼杵の教育はこんなのがいいというように子どもたちのことを念頭に置きながらご議論いただけるととてもありがたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

市長

はい。ありがとうございます。これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む小中一貫教育ということで、ご説明いただきました。特にこれまで積み重ねてきたものを、さらに、今後、再編に向けて方向性を示さないといけないというのはあろうかと思うのですが。

せっかくの機会ですので、大きくとらえた感じで、皆さんと意見交換ができればいいと思っておりますので、まずは率直なところ、終わるべきとか、これまでこういうところに課題を持っていたとか、そのようなことも、ご意見等々いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

木本教育委員

小中一貫校を目指すという方向は、とてもいいというか、そうあるべきだろうという私は思っています。その中でいろんなメリットなどを今提案していただいたんですが、今後、検討していく視点の1つとして、竹に節があるようにというか、スムーズにギャップをなくしていくというメリットは当然あるわけですが、未知の経験を経験することや戸惑うことなど、そうしたことをたくさん積み重ねていくことが、強い竹にもなっていくと思うので、この一貫校の視点の1つにそういうことも念頭に置いた学校づくりに取り組んでもらえたりするといいのではないのでしょうか。当然これからも異学年の交流の中には、他に地域との交流なども含めて思うんですけど、いろんな方法を使って未知のものを経験させていく、或いは失敗というか、困難というか、それをさせていくということも視点として、開けて計画づくりを進めていくといいのかなという感じを持っています。

村上教育委員	<p>私も今木本委員がおっしゃったように小中一貫校を目指すのはとてもいいと思います。今説明の中で、中1ギャップの緩和、これがやはり今まで、問題ということではないかもしれませんが、すごく感じてたので、それがなくなるのもよいですし、中学の先生が小学校で授業をするなど、本当に理想的だなと思いました。異学年交流もよいのですが、今まで小学校6年生が最高学年でしっかりしていたのが、今度9年間になるとその途中という感じで、今までのようににしっかりしたところはなくなるんじゃないかなとかいうのは少し感じます。保育園の年長さんがとてもしっかりしてるのに1年生になった途端に甘えんぼうさんになるようなイメージです。それは、実際にやってみないとわからないのですが、小学生の6年生でもしっかりしたような、教育をやっていただけたらというふうに思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。村上委員がおっしゃった小6が頑張っって、また中1になってみて、そこは木本委員のおっしゃるその節のような、そういうイメージなのでしょうか。ですので、連続して9年ということになると、よくない面も出るかもしれないということでしょうか。おっしゃっていただいたように、何か経験をさせるなど、ここは超えていかないといけないことなど、大人側が考える中でしっかり乗り越えていくものをつくらないといけないかもしれませんね。</p>
村上教育委員	<p>施設など、大変ですね。小学校1年生が使うトイレと、高校・中学3年生が使うものでは随分差があります。</p>
市長	<p>何をもってケアすればいいのか、そういうものはあるのかもしれませんが。</p>
神田教育長職務代理者	<p>まず小中一体教育というのが、私のこどもがちょうど校長先生が言い始めたときに北中の生徒だったわけです。実際こどもたちは、ある程度形になっていたのが本当にスムーズな接続ができているなどという感覚が今のこの成績にもあらわれているような気がします。木本委員がおっしゃったように小中一貫校というのはとてもいいことなのではないかなと思ってます。たまたま今週、とある小中学校に行く機会があって、そこは4年生までが小学校の教室を使って、5年生以上は母校の中学校を使っている形です。動物の話をしに行っただけですが、いろんなカリキュラムの中で、時間、内容を、フレキシブルに対応できると。例えば、中学校でやるとき、中学校と小学校が分かっていると、中学生は理解できるけど、小学生にも聞かせたいなという時に今6年生が入ったりするのですが、それが簡単にできてない、とてもいいんですよという校長先生のお話もありました。ちょうどPTA会長さんがいらっしゃってお話をしたところ、卒業式が9年生のときにしかない。またとある学校は多分6年から7年生に上がるときに卒業式をしているはず。ですので、ちょっと寂しいですねという話はしていたのと、PTA会長になるとかなり長くつとめる必要がある。さきほどの学校のように節、先ほど木本委員がおっしゃったような、節があった方が、保護者も助かりこどもたちも何かしらのエイヤーっという心構えもあるのではとPTA会長さんは仰っていました。そのスケールメリット、全体でやることと、細かくパーテーションしてやれることのメリットはとても大きいですと校長先生もおっしゃったので、今後この方向にすすむことは、臼杵市にとってとてもいい教育なのではないかと私は思っています。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。実際に一貫校になったときに全部を一緒にしてしまおうと乱暴にするのではなくて、6年生では1回卒業式のようなものがあって、PTAも小学校の部と中学校の部で別れて作るなどは必要でしょう。中学生の制服も最近新しくなったばかりでもありますし、一貫校を形で全部当てはめるということではなく、しっかりと間に節を作るようなイメージはあってもよいのではないのでしょうか。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>おっしゃる通りとても参考になると思いますがやはり臼杵市独自でいろいろ考えるということと小中一貫校の先行事例があります。例えば、義務教育学校や連携で432の、これをユニットと言いますが、1年から4年まで。5年6年7年、そして8年9年という形で、メリットの方で含んでおいて、例えば全体で行う事業であったり、あとは、1から4と一緒に、要するに、4年生があらかじめリーダーですよという意識で、1年生と一緒に رفتりなど、5年6年7年生は中一ギャップのちょうど間になるのですが、そこを一体とした流れの中で、7年生がこの中間のリーダーとしてやるなど、またそういうような形を選んでみたりなど、また臼杵は1中学校1小学校だけではないので、それが全部はまるどころと、はまりにくいところがあります。ですのでまた今後はいろんな先行事例、皆さんの意見など様々聞きながら、それぞれのブロックごとにうまくあてはまりそうな形をしっかりと節目をつけながら、その時々リーダーの役割をしっかりと与えながら行っていく。本当に臼杵はいろんな形ができそうですので、いろんな魅力ができるんじゃないかと私も今、お話を聞きながら思ったところです。ありがとうございます。</p>
<p>村上教育委員</p>	<p>神田先生のお話を伺って、実際に今やられてる学校を見て参考にするということ、そしてお話を聞くというのは、メリットデメリットを直に聞くことができているなと思いました。</p>
<p>佐藤教育委員</p>	<p>私も全面的に小中一貫校には期待というかいいなと思っています。特に今、私まだ小学生のことももいまして、実際に私自身が小学校に日々行く機会がありまして、この中で、異学年交流の強化というところで、これに対す先ほどの、中学3年生が1年生引いてじゃないですけども、うちの子どもが通ってる学校は、1年生から6年生までがなかよし班という名前でグループを作るんです。もう日々の掃除のときなどもなかよし班で、いろんな箇所に分かれて掃除をするんです。そのときに、6年生が主体となって今からはじめますなどいろいろな指示を出したりします。当然1年から6年までいるので、やっぱりまだ1年生は、掃除のいろいろなことがわからない、だから5・6年生も先生も一応近くにいるので、ちょっとした6年生に対しての指示や指導もできる。6年生は自分より下の下級生が見ているから、リーダーシップを取らなきゃいけないというのが自然とそういう空気にもなりますし、下の学年は5年生6年生が率先してしていたり、リーダーシップを発揮していたら、僕たちも来年1個上になる、上になったらしっかりしなきゃいけないという意識がだんだんと芽生えていっているような気がします。ですので異学年交流の強化というのはもう本当に大変よいと思いますし、いろんなことをやってもらいたいと思います。</p> <p>もう1つ教職員の意識の変化、小中の教職員の交流が盛んにあり、9年間を通して児童生徒を育てる。だからやはり小学校のときのいろんな情報を、中学校の先生に伝えたりするパイプのようなものが常にあった方がいいのではないかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。臼杵の教育環境を、子どもの数が少ないことは統廃合の問題も含めて寂しい部分もあり、私自身市長として、もっともっと、よそから人が来てくれたり、ここで子どもを産み育てる人をふやしたりするための努力はこうしていきますけれども、逆に少ない部分で、一人一人に目が行き届いた丁寧な教育はできていると捉えています。だからこそ、成績の方でも、きめ細やかな対応となって、その底上げこそが全体の点数のアップに繋がっていると思いますので、そういう連続性でもって丁寧なご協力をしていただければ環境こそが臼杵の魅力としていきたいと思っています。教育長いかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございます。先ほどの木本委員の竹の節というのはいるのかなと思います。やはり、小学校1年生が2年生に上がって、新入生が入るときに背伸びしますよね。なので、背伸びをするタイミングというのは学校教育の中で、教育以外のところで急に、お兄さんお姉さんに</p>

	<p>なったりとかいうのがあるので、今臼杵の小中一体教育から一貫校を考えたときに、先ほど課長の説明した義務教育学校をイメージするよりも、小中一貫校、ユニットでいうと、1年生から6年生で1回キリを作って、中学校は中学校という考えの方が、今の一体教育には沿うのではないかなと思っています。あとは、接続の問題がここでかなりスムーズになる。私は小中一体教育を始めたときの大きなメリットとしては教員が卒業生の姿を常に見れる。6年生を卒業させるだけではなくその子たちが中学に入って、どう頑張っているのか、どこで戸惑ってるのかがわかる。小学校の先生が中学校をイメージして教育ができる。逆に、中学校の先生が小学校の教育に入っていくって、どんなことをやってるかがわかる。小中の先生方の連携は今はかなりでき始めており、こども園と小学校の繋がりも、幼小の接続でできています。これはおそらく臼杵だけであろうと思いますし、なによりこども園の先生方のご協力がなければできないことです。またそれぞれの園の先生方が学校に見学に行きます。一方で夏休みには小学校の先生方が園に行つてどんな教育をしてるか見学する。ですので幼小中の接続はもうかなりできつつあります。</p> <p>このように、先生方はとてもメリットがあるし、こどもたちは見習うべきモデルが近くにあります。ですので中学校でとても成長した先輩の姿がすぐそばで見ることができる。中学校3年生の合唱など見ると、自分たちはうっかりしてられない気持ちになるのでは。そういう意味では、小中一体教育・小中一貫校の設置っていうのは、自分たちの憧れの存在がそばにある、これもメリットであると思っています。また、ご相談をしながら、全体で絵を描く、それから臼杵の特徴として、一体型というのは同時にたくさんできないとしたときに、やはり隣接型の一貫校もイメージおかないといけないのではと考えています。今後話を詰めながら、本年度中には、大体のイメージをお示しし、その都度皆様方にお知らせできればと考えております。忌憚のないご意見ありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。今、教育長がおっしゃった、今年度中には大体のイメージとして、今後、長いスパンではこう進めていくという内容を、皆さんと共有しながらこの一貫校をより具体化していければと思います。あわせて、市長部局の立場からすると、市長に着任して改めて感じるのが、やはり統廃合のビジョンを長期で描かないとハード整備にはなかなか繋がらない。仮に今年度中に方向性が見えてくれば、ある程度のスピード感を持って、校舎をこういうビジョンで建てかえていきたいという内容も、皆さんにご提示できるようになっていければと思います。</p> <p>市全体で見ると、ハード整備というのは、いろんな課題が山積していますが、私は、こどもの育つ環境として学校現場を少しでも優先すべきという思いはあります。教育委員の皆様、このような場で、私の意思を表明させていただけたらと思っています。小中一貫校に関してはその他よろしいでしょうか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>はい。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。また何か追加の意見がありましたらのちほどの報告事項の後でも教えていただけたらと思います。続いて、報告事項について説明をお願いします。</p>
<p>秘書・総合政策課</p>	<p>秘書・総合政策課の大津です。私の方からは、臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会についてご報告をさせていただきます。お手元の資料3をご覧ください。重ね折りしていますがA3の資料です。着座にてご説明させていただきます。</p> <p>まずは先月11月25日開催した本意見交換会につきましては、教育委員の皆様にはお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。改めまして御礼を申し上げます。ご存じの通り、中学生と市長との意見交換会につきましては、地域の未来を担うこどもたちに、臼杵の現状や魅力、未来図を考えてもらい、臼杵愛を育んでもらう、一方で、自分の考えや意見を他者に伝える</p>

プレゼン力を養ってもらおうと、このような議会形式で開催しています。意見交換会の具体的な目的は、資料の左側、四角の中にお示しております。

皆様にもご参加いただいた今年度、11月25日野津中での開催になりますが、1年生45名が4班に分かれ発表いたしました。あいにく当日は、突如10名近くの欠席者がありました。中学校はもう大変心配があったようなんですが、にもかかわらず、突然の困難に生徒自身がですね、臨機応変に対処する姿がありました。とてもたのしく、結果野津中学校生徒の底力が発揮された素晴らしい意見交換会であったと思っております。

各班の提案内容は、資料3の右側に掲載しております。意見交換会の1週間前は文化祭などもあって、準備が重なってハードスケジュールの中、調整いただいております。そのような中でも生徒自身ですね、実際にのつてらすなどの見学に行っていたりなど、積極的な活動をしていました。ただ土づくりセンターの見学も予定していたそうなんですが、忙しいカリキュラムの都合で、やむなく諦めていたと聞いております。中学校の特に日々多忙な教員の皆様方にご協力をいただきながら開催できておりますので、改めて本当に感謝いたします。

一方で人口減少で、小学校が統廃合されることなど、自分たちが生活する野津町の課題を掘り下げながら提案を考えるにあたっては、地域を盛り上げる大変さも知りえた様子がかえりました。意見交換を行いながら、改めて、野津町の資源が当たり前でない、魅力があるのだと気づきに繋がったというふうに聞いております。

なお生徒さんからいただいたアイデアにつきましては、このままにせずですね、今後、実現できるものを検討しながら対応していく予定をしております。あわせて生徒が本当に実現したいものがあるか、できそうなものがあるかについても、改めて、野津中学校におはかりしております。例えば、ウォークラリーやのつてらすのパンフレット作成を挙げて、野津中の先生にご相談したんですが、実は今年度、中学生のカリキュラムが目白押しで、実は隙間がないんだとお返事をいただきました。ただ各班の提案の中からそれぞれピックアップして、来年度、令和8年度の総合的な学習の時間のテーマに持っていくような案も先生からいただいております。

次のスライドをお願いします。最後にすでに実現してるアイデアの1つとしてこれをご紹介させていただきます。3番の臼杵の食文化の伝承発展に関する、アイデアの中に、SNSで郷土料理の作り方を発信する、それから、給食センターのInstagramで作り方を載せるというものがありません。これを受けて、給食センターの方で早速ですね、Instagramに郷土料理、それから目新しい料理について投稿を行うような取り組みを始めました。今後も随時アップしていきたいと、この投稿が野津中学校生徒のアイデアであることも書き添えております。今後も中学生の皆さんがですね、自分たちが考えたアイデアが行政で活かされたという達成感や幸福感を感じられるように、連携しながら、小さなことからでも実現できればと思っております。なお来年度の開催校は東中学校の予定となっております。以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

市長

はい。ありがとうございます。先日はこの意見交換会に皆さんも同席していただきまして、改めてありがとうございます。本当に今の中学生、1年生なんですけども、まずはその提案が具体的で、自分が住んでる地域、この臼杵市が有機農業に取り組んでることとか、ユネスコの食文化創造都市に認められたこととか、のつてらすという新しいところできたんだという、そういうものを身近に感じてもらって、それに対してのその具体的な提案をいただけたことに私自身も非常に感銘を受けましたので、それをしっかりと受けとめて施策に具体化しないといけないと思いました。もう1つは、生徒がタブレットを持って画面でスライドもさっと変えて発表するのに大変慣れてますよね。そういうのは、私自身大学生ぐらいで経験することでしたから、あらためて素晴らしいなと感心した次第でございます。率直なところ、感想でも構いませんので、何か皆さんからいただいたらと思います。

村上教育委員	<p>私もこれに参加させていただいて、子どもたちがこんなにしっかりしていることに、本当に感動しました。感動して感心して、市長さんがおっしゃったようにタブレットの使い方も非常に上手で、発表自体もしっかりしていて。私たちはそういうものに触れずに育ったので、本当に1人1台端末というのは、意味を成してるんだなと感じました。</p> <p>そして今説明がありました、学校給食に郷土料理を出す日を作り、インスタグラムで分量や作り方を公開するという子どもさんの意見をすぐにこのように取り入れてくれているというのは、本当に子どもたちにとって励みになると思います。毎回、良い意見が出てそれを市の方で取り上げてくれるというのは、子どもたちにはこれからもモチベーションも上がりますし、いいだろうなと思います。本当にありがとうございます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。野津中の生徒さんにこのことを伝えて、インスタグラムを確認するようお願いするのもいいのではないかと思います。従来は子ども市議会で生徒の代表が各学校から参加して質問し、それに市が答弁する議会形式だったのですが、このような意見交換会という形式の方がやはり学校側に労力がかかっているのではないのでしょうか。</p>
教育長	<p>実は私が西中校長のときに、市長にお願いをして意見交換会をさせてくださいと。タブレットが当時まだあまりない時代だったんですが。夏休みに子ども市議会をやってはいましたが、全員が参加する機会を作らせてくださいとお願いをして始めた次第です。今、2周目でしょうか。実のところ負担感はないとは言いがたいのですが子どもたちにとっては市長さんが学校に来るという、そういう経験がまずないのです。自分たちの提案を一生懸命、今回もそうですけど市長が白杵弁でいうところの「ちゅう」で全部答える、それも子どもたちのアイデアを否定せずにです。です。です。子どもたちはモチベーションが上がります。今回は1年生ですから少し幼さは否定できませんが、でもその発達段階の中で、やはりたくさん関係者が参加していただき、自分たちの話を聞いてくれるというのは子どもにとっては良い経験です。なので、これをぜひ続けて欲しいと思っています。</p>
市長	<p>ありがとうございました。このような取組にも、日頃からご協力いただいていることに大変感謝している次第です。良い機会ですので他全体的なことや議論しておきたいことなど、課題などありましたら、まだ時間も多少ありますがいかがでしょうか。</p>
神田教育長職代理者	<p>今、この意見交換会の件なんですけど、多分、市長と直接子どもたちが話すというのは本当にいい機会だと思うのです。ただおそらく、この4つの案ができたときに、形式にとらわれたある一定のフィルターのようなものがかかっているような気がしています。言い方に語弊があるかもしれませんが、これからの子どもたちのためにはもっと辛辣で、エッジの効いた意見があってもいいのではと思いました。</p>
学校教育課長	<p>綿密に一生懸命子どもなりに準備をする。一生懸命しているけれどもというところでしょうか。</p>
神田教育長職代理者	<p>多分子どもたちにとっても市長に対するリスペクトがあるので、こんなことを言っているのかという不安もあったと思います。それはもう当たり前のことなのですが、その中にあってもやはり、形式にはまらない、たとえば当日の「のつてらす」のクイズのような場面では市長や関係者もたくさんお答えしてみんなで盛り上がりました。いわゆる「意見交換」となったのが、あの瞬間だったような気がするのです。せっかくの市長と子どもが直接話せる機会ですので、もう少しだけ形式を少し取り除いた方が、意見交換会として望ましいのではと思いますがどうでしょうか。</p>
木本教育委員	<p>野津中学校の総合的なカリキュラムを組んでいく上で、まず、野津の魅力などを視点の1つに、</p>

	<p>やはり農業が盛んであるので、農業と食そして歴史、その3つの視点でやっていく、そしてある程度枠を決めながらといいますか、それをしながらICTなどいろんなスキルを積み上げていくというのは、本来であれば、教育長が言われたように、3年生にもなれば自分の言葉で意見交換できることもあったろうとは思っています。ですが、今回は1年生が対象でありましたからある程度型にはめるのは仕方がないところもあるかなと思います。それをしないとなかなかお互いに学び合うことができないのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>このような経験は、中学1年生ではまだほとんどしたことがないのではと思います。資料3の4枚の写真のうち、左下の写真は、私がこどもたちと気軽に話していますが、こどもたちが甘太くんのキャラクターってどんなイメージなのかを、タブレットを使って私に教えてくれている時の様子です。</p>
村上教育委員	<p>かわいいキャラクターを考えてましたものね。 市長さんと直接話すことは本当にいいことです。こどもたちにとって自信になると思います。</p>
市長	<p>私としても、こうやって大勢の人と接することができるのはありがたい機会です。 その他、いかがでしょうか。</p>
佐藤教育委員	<p>臼杵市の小中学校の支援員さんをもっとふやして欲しいという要望なのですが、今、教職員先生方の人数が足りていなく、先生方がとても現場で大変な状況を時々目にしています。市の予算で、待遇が改善されれば、人材も少しは集まりやすくなるのではと思います。障害のある子もいない子どもともに学ぶためには、やはり現場を支える支援さんがどうしても欠かせないと思いますので、増やす取り組みを進めてほしいので是非ともよろしく願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>支援員の取り組みについては、臼杵市の定数という意味では足りている状況で会計年度職員という形で配置しています。全体のバランスをとる中でその時間を調整させていただいておりますがご理解いただければと思います。</p>
市長	<p>どのようにして予算を確保していくかということでしょう。時給単価が上がって逆に時間の方が減らされてしまえば、今までよりもサービスが落ちてしまうということでしょうから。</p>
学校教育課長	<p>学校の実態に応じてという形で、ある程度幅はありますので、そこは調整しながらという対応になるのかなと思います。</p>
佐藤教育委員	<p>例えばですけど二部制、支援員さんや学校のそういう仕事に携わりたいなと思っている方は多少いるような気もしますし、二部制というのは通常の時間帯出勤で、途中午後から行くというようにできないのかなと思っています。</p>
佐藤次長	<p>支援員を含めて、求人募集をかけてもなかなか確保できないのが現状ととらえています。 委員提案の2部制での勤務形態となると、児童にとってみれば一日の途中で支援員がかわることとなる、それはいろんな不都合が生じることも考えられますので、現状としては朝から勤務するような雇用形態を考えています。よって、佐藤委員の言われるのはわかりますし、こちら側としてもなるべく予算を確保していきたいというのがありますが、やはり、新名課長が申し上げましたとおり全体的なバランスをとりながらやっていかないといけないのかなという気はしてお</p>

<p>市長</p>	<p>ります。そういった現状を踏まえて、また教育委員会でしっかりと意見を交換していきたいなどというふうに思っていますので、きめ細やかな対応をしたいというふうに思います。</p> <p>その他よろしいでしょうか。</p> <p>活発なご意見、ありがとうございました。概ね予定した議論はできたかと思しますので事務局に司会を戻します。</p>
<p>秘書・総合政策課 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日は大変お忙しい中、また長時間にわたりご協議をいただきましてありがとうございました。本日、皆様からいただいたご意見は、今後の教育政策の推進につなげていければと考えております。これをもちまして、令和 7 年度第 1 回臼杵市総合教育会議、閉会をいたしたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>市長 教育長・教育委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>